



岡山県の「見直し案」は、全国でも最低・最悪

岡山県が打ち出した「単県医療費公費負担制度の見直し」問題は、森脇県議と赤坂県議が連携して一般質問で取り上げました。

森脇県議は、心身障害者に対する単県医療費公費負担制度について、「見直しの内容が、自己負担でも、所得制限でも、全国最低の水準であることを知事は認識しているか」と質しました。石井知事は、「一概に比較することは難しい」と答弁しました。

このやりとりを踏まえ、赤坂県議は、今回の提案が、内容で

倉敷チボリ…これ以上の税金投入はやめよ

赤坂県議は、県が提示した「倉敷チボリ公園の今後の基本的方向性」の三パターンについて質問

「県の補助金打ち切り、自主再建」というパターン1は、今から四年前、石井知事が「平成十八年度までに県支援がなくても単年度黒字化」という目標で「五年間で三五億円の税金投入」を決めたが、その「単年度黒字化」が破綻した今になって、また同じ構想を持ち出すものだと批判しました。また、「民間の土地を県が借り受け、第三セクターがレジヤラランドを経営す

二月定例会議会は、二月二十八日に開会し、三月二十日まで十一日間の日程で開かれました。日本共産党県議団は、森脇ひさき県議と赤坂てる子県議が一般質問に、武田英夫県議が討論に立ちました。詳細は、ホームページをご覧ください。

も、市町村への補助率でも、手続きという点でも、全国的にみて最低・最悪であることを、パネルも活用して具体的に明らかにし、「撤回」するよう強く求めました。

まず、内容について、心身障害者医療を例にとって、対象となる障害等級、所得制限の基準、自己負担額、どれをとっても全国最低水準であることを明らかにしました。

対象となる障害等級は、岡山県では障害等級二級までですが、全国では二都府県が三級まで対象です。所得制限は、現在、所得制限無しが十二県。所得制限有りが三五県ですが、その中でも岡山県は高齢福祉年金準拠で、低所得者にとって最も厳しい基準を採用しています。

自己負担額は、「自己負担なし」が三五府県、自己負担を導入している県は十二県ですが、そのうち岡山県が今回導入しようとする、全国にこんな例があるかと迫りました。石井知事は「ないものと思う」と答弁しました。

「指定管理者制度の導入による県民・市民公園化」というパターン2については、いまだ以上に巨額の税金を投入する道以外の何ものでもない、と批判しました。

そして、県案では「倉敷市の協力」が前提になっているが、倉敷市長の公式発言は、「協力は惜しまないが、新たな税金投入は困難」というもので、破たんは明白だと指摘しました。

日本共産党岡山県委員会
会は四月三日、来年四月に実施される県議会議員選挙候補者の第一次発表をおこないました。

岡山県独自の医療費無料化制度の改悪を撤回せよ

森脇ひさき県議と赤坂てる子県議が一般質問

みなさんの願いの実現へ、がんばります

― 来年の県議選候補者（第一次）を発表 ―



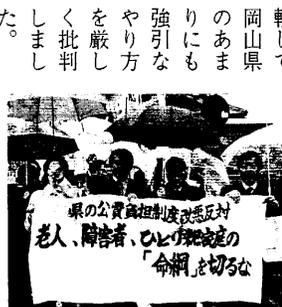
岡山1区
森脇ひさき
現・43才



岡山2区
武田英夫
現・58才



倉敷・都窪区
赤坂てる子
現・51才



「折衷案」は撤回を

その後、三月二十八日の委員会に、パターン1と2の「折衷案」が示され、三十一日に、石井知事がこの「折衷案」を今後の基本方向として採用することを明らかにしました。

しかし、「折衷案」は今後も新たな税金投入に道を開くものです。日本共産党は、あくまでも「新たな、巨額の、長期間の税金投入には反対」の基準で解決がはかられるよう全力を尽くすものです。

森脇ひさき県議の質問内容

- 06年度予算案について
- 人権問題
 - 人権政策推進指針の改定について
 - 障害者自立支援法
 - 障害者の単県医療費公費負担制度見直し
- 放課後児童クラブの充実について
- 若者の雇用対策
- 文化振興基本条例案について
- 日本原演習場での日米共同訓練について

赤坂てる子県議の質問内容

- 社会保障について
 - 単県医療費公費負担制度見直し
 - 生活保護の援護費予算を廃止するな
- 子どもの問題
 - 小1から30人学級の実現を
 - 「第三次行革改訂」による教員削減について
- 住民の安全を守る一コンビナート事故について
- チボリ問題
- ガス化溶融炉問題

県議団の実績パンフ完成

県民の要求を 県政に届けて...

日本共産党県議団の実績



暮らしの第一は岡山県の憲法を守る

2006年4月

日本共産党県議団

電話でお申し込み下さい。

活動日誌

- 1月12日 県北における記録的な積雪対策について県に緊急申し入れ
- 1月13日 「単県医療費公費負担制度の見直しについて」(案)の撤回を求める。県への緊急申し入れ
- 1月31日 子ボリに対する石井知事の2月定例会議に臨む姿勢について、申し入れ
- 2月3日 来年度予算に関する知事折衝
- 2月16日 「単県医療費公費負担制度の見直し」撤回を求め、再度知事に申し入れ
- 2月17日 2月20日から実施の日本原日米共同訓練に当たり、知事に申し入れ
- 2月24日 障害者自立支援法の4月1日からの施行にあたって、県に申し入れ
- 2月25日 子ボリ問題で『声明』を発表
- 2月28日 国の医療大改悪反対について、県に申し入れ
- 4月4日 子ボリの今後の基本方向に関する知事提案の撤回を求め、知事に申し入れ

昨年の十一月定例会議以降、党県議団は、以下のような活動に取り組んできました。くわしい内容は、ホームページに掲載しています。



日本原抗議行動 (2月26日)



子ボリ県民集会 (3月16日)

2006年4～6月の議会日程(予定) - 委員会の積極的な視聴を -

日	委員会	時間
4月12日(水)	議会運営委員会	13時～
4月14日(金)	各常任委員会	13時～
5月2日(火)	各常任委員会	10時30分～
5月8日(月)	議会運営委員会	10時30分～
5月11日(木)	議会運営委員会	10時30分～
5月15日(月)	臨時議会	10時30分～
5月16日(火)	議会運営委員会	10時30分～
5月17日(水)	各常任委員会	10時30分～
5月18日(木)	決算特別委員会	10時30分～
	行財政改革特別委員会	10時30分～
	地域振興特別委員会	13時～
5月19日(金)	次世代育成・男女共同参画特別委員会	10時30分～
	環境・危機管理対策特別委員会	13時～
5月25日(木)	(各常任委員会)	10時30分～
5月30日(木)	特別委員会	10時30分～or13時～
6月1日(木)	各常任委員会	10時30分～
6月2日(金)	特別委員会	10時30分～or13時～
6月5日(月)	議会運営委員会	10時30分～
6月26日(月)	特別委員会	10時30分～or13時～
6月27日(火)	各常任委員会	10時30分～
6月29日(木)	議会運営委員会	10時30分～

6月定例会議は、6月12日開会、30日閉会の予定。代表質問は6月15・16日、一般質問は6月20・21・22・(23)日の予定。日本共産党からは、赤坂てる子県議が一般質問、武田英夫県議が討論に立つ予定です。請願・陳情の受付は、6月14日(水)までです。



2006年度予算案に反対 武田英夫県議が討論

討論に立つた武田英夫県議は、まず来年度一般会計予算について、「単県医療費公費負担制度の見直し」や「生活保護費公費負担制度の見直し」など、重度心身障害者や低所得者にとって耐え難い内容を含んでおり容認できないとして「反対」を表明しました。そしてこれに関連して、県民、とりわけ重度障害者のいのちと健康を守る課題は県政の最優先課題であり、岡山県の単県医療費公費負担制度はこれまでも全国から遅れており、拡充こそすれば後退は許されないとの立場から、関連の請願・陳情を県議会が採択し、執行部に強く「撤回」と「実施の凍結」を求めるべきだと主張しました。

次に、公務員の定数と給与にかかわる二つの議案について、「小泉劇場」の「官」一辺倒の議論から脱却し、「真の公共性と県の役割」を基調に据えた議論が必要であることを指摘し、県庁職員の「これ以上の定数削減」と「給与構造改悪」をすすめることに反対の態度を表明しました。「皇室典範の改正について慎重な取り扱いを求める意見書」に関しては、①皇位について男女の区別を設ける合理的根拠はない、②皇室に対する国民の負担、国庫支出を新たに広げることが必要ではない、③以上の二つを基本に総合的にじっくり議論すべき、というわが党の立場を紹介しつつ、「慎重な議論」という点では一致しているものの、「女性・女系天皇の容認には反対」というスタンスがうかがわれるので「同意できない」という立場を表明しました。

主な議案の結果

【議案】	共産	自民	民進	公明	結果
平成18年度岡山県一般会計予算	×	○	○	○	○
岡山県職員給与と条例等の一部を改正する条例	×	○	○	○	○
岡山県職員等定数条例の一部を改正する条例	×	○	○	○	○
皇室典範の改正について慎重な取扱いを求める意見書案	×	○	○	○	○

※ ○賛成、×反対

【請願・陳情】	共産	自民	民進	公明	結果
単県医療費公費負担制度見直し(案)の撤回を求めることについて (NPO岡山県腎臓病協議会)	○	×	×	○	×
※民県クは、紹介議員になりながら「不採択」の態度をとりました。					
心身障害者医療費公費負担制度の現状維持を求めることについて (旭川児童院通園センター)	○	×	×	○	×
単県医療費公費負担制度見直し案の撤回を求めることについて (岡山県保険医療協会)	○	×	×	○	×

※ ○採択、×不採択

2月定例会議には、平成18年度一般会計当初予算案をはじめ105の議案が提出されました。日本共産党は、県民の利益に反すると判断した9議案に反対、残りの議案全てに賛成しました。他の会派は全ての議案に賛成しました。

2月議会にむけ、党文化後援会と懇談

党県議団は二月二日、党文化後援会との懇談会を開催しました。この懇談会は、二月定例会議に提案された「県文化振興基本条例」をはじめ、平成二十二年に岡山県で開かれる国民文化祭や岡山県の文化行政について広く意見を交流するために開催したものです。党後援会からは、各界で活躍する十氏が参加しました。

懇談のなかでは、「文化行政のあり方として、金は出すが口は出さないということが大切」「国民文化祭に向けて、いくつものに分かれている団体を一つにまとめるよう強く要請された」「県行政のなかに、文化行政のプロを養成する人事システム

を」「行政の文化化を」「地域に文化活動で市民が気軽に使える施設が少なすぎる」など、活発な意見が交わられました。

党県議団では、これらの意見を踏まえ、森脇県議が一般質問に、武田県議が討論に活かしました。

2月2日

